

棚田に吹く風

2017
夏秋
Summer-Autumn

2 特集

特別寄稿

平時の棚田の保全と 災害時のボランティア

熊本地震における山都町の復興へ

5 フォトエッセイ

棚田との語らい

6 棚田・里山からのたより

地域住民と棚田に愛着を持つ人達と
守り、受け継ぐ井仁の棚田
広島県山県郡安芸太田町

8 棚田ライダー

ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く

南房総の海が見える棚田
千葉県鴨川市二子

12 会員のひろば

14 かつどうノート

スタッフのつ・ぶ・や・き

15 Project Report



特別寄稿

九州大学芸術工学研究院
環境デザイン部門
朝廣 和夫
写真・文

平時の 棚田の保全と 災害時のボランテニア

熊本地震における山都町の復興へ

日本は本当に自然災害の多い国です。前の災害の傷跡が消えないうちに次の災害がやってくる。この夏も、九州は豪雨に見舞われました。農村地域での災害と復興について、実際に活動しておられる専門家からの特別寄稿です。

棚田の保全と災害

アジアに広がる棚田、共通なのは雨に恵まれていることです。水を張った棚田の連なりは美しいです。一方、大雨や豪雨、台風による水害、土砂災害も伴います。

災害時、棚田は実に有能です。降った雨を水平に広げながら受け流し、山から崩れた土砂を棚田が受け止めます。棚田の下端に位置する集落や家々を守り、被害を軽減してきました。災害の度に人々は石を積み、土坡を均し、畦や水路を作り直してきました。そのような営みが、現在の棚田景観を形成したといえます。



1：山都町棚田の被害の遠景／2・3：熊本地震では棚田にも大きな被害が出た／4：水路泥浚えボランティア



1：法面の崩落／2：復興会議での議論／3：集落調査について説明を受ける

2012年九州北部豪雨の経験

平時の棚田の保全活動が、災害後の農地・農業用施設の復旧ボランティア活動に展開した事例が2012年7月九州北部豪雨でありました。「土砂に埋まった水路を早くなんとかしたい」。そのような農家の声を受けて、福岡県八女市黒木町のNPO法人山村塾をはじめ、都市の人々と棚田保全の交流をしてきた地域で活動が展開したのです。このような事例は全国でも稀といわれており、この成果は「災害後の農地復旧のための共助支援の手引き」として2016年3月にまとめ、同年4月の熊本地震への展開に活かせることになりました。

熊本地震、西原村で展開した農業ボランティア

2016年4月の熊本地震、西原村では同5月に農業復興ボランティアセンターが、日田市の地域おこし協力隊の経験を持つ河井昌猛氏に委ねられ展開されました。被災した甘藷生産農家から5月中に作付けを終える必要があるという声を受け、フェイスブック

でボランティアを募集し、事前予約制で開始されています。作業は芋苗の植え付け、ヘタ取り、草取り、ニンニクの収穫などです。活動実績は、5月6日から7月末のまでの71日間で、447件、延べ2534人のボランティアが参加しました。その7割はリピーターで女性や子供の参加が多いことも特徴です。その多くの理由は、楽しかったから、素人でもできる軽作業だったからなど、これまで災害ボランティアに参加できなかった層が参加したといわれています。

この活動は、2016年の夏に休止し、9月下旬から西原村百姓応援団として再出発しています。より持続的な活動とするため、ボランティア派遣を希望する農家を会員制とし、1ボランティアあたり1000円を請求し、参加ボランティアにも弁当代（地元のシルバーセンター）等として1000円を負担してもらい事務局経費を確保する仕組みとされています。農家の自立支援は、高齢者の支援、耕作放棄地を抑制する効果もあったと想定され、2017年6

月末で約5500人の参加者数へと活動が継続しています。

ふるさと発復興会議の取り組み

この西原村の成果を受け、熊本大学名誉教授の徳野貞雄氏（農村社会学）は、新潟県中越地震後の復興に貢献した中間支援組織「中越復興市民会議」の取り組みを参考に、2016年7月に、農村部の声を行政に橋渡しすることを目的に、「ふるさと発復興会議 九州・熊本」を設立し、同8月に御船町、10月に山都町で実施し、様々な農村部の声が共有されてきました。

その問題意識は、報道が都市部や一部の被災地に偏り、その他の農村部については、ほとんど語られることがないという危機感でした。また、高齢化が進み担い手が減少する農山村にとり、都市部や非農家からの農業支援が必要となる。西原村で培われた仕組みは、将来の農業ボランティアの恒常化に向けて重要な示唆を含んでいると述べられています。この会議の場で、山都町から支援実現の声が寄せられました。

平時の 棚田の保全と 災害時の ボランティア 熊本地震における 山都町の復興へ



山都町からの声と活動の展開

山都町の白糸地区は1854年に作られた通潤橋で有名で、「通潤用水と白糸台地の棚田景観」として文化庁に重要な文化的景観の選定を受けています。

熊本地震で傷んだ棚田は、更に2016年6月の豪雨を受け、大きな被害となりました。町が把握するだけで3000ヶ所の法面が崩壊しました。120軒の農家のうち後継者がいるのは3軒のみ。「本当に家は後継者を残さなくてよかった」、そのような声が出るほど、この惨状に地域は茫然自失だったといわれています。「地区の平均年齢は70歳を超え、自力復旧は無理」。下田美鈴氏は、2016年10月に行われたふるさと発復興会議で訴えられました。

この声に応える形で復興会議の議長を務める西原村の河井氏が全体調整を進め、NPO法人山村塾のノウハウも加わり、同年12月、2017年2月と事前打合せ、現地調査、地元調整を重ねました。地元は、下田氏を中心に山都町棚田復興プロジェクト

クトを立ち上げ、2017年3月11日から数回の農地復旧、水路の泥浚え等の災害ボランティア支援が行われました。

当初は懐疑的な声が多かったのも事実です。しかしながら、水路の土砂上げや棚田の復旧作業に熱心に取り組むボランティアの姿勢とパワーを知った地元の農家からは、「こげん力のある人達やったら、また来てほしい」、「農業を続けたい」との声に繋がりました。ボランティアからは、「通潤橋と水路と棚田の関係を身体で知ることができて良かった」、「ほんとみそ汁が美味しかった」、「美しい棚田をぜひ残してほしい」といった声が聞かれました。2017年度も継続が予定されています。

災害復興において、行政は全てを把握することはできず、支援には隙間があります。ボランティアによる支援は労力が限られるものの、創造的で、被災者に直接届きます。平時の棚田保全が災害時にも機能する仕組みが必要です。



1：ボランティア後の昼食／2：泥を戻すために組まれた竹／3：布田神社に展示された、地震で破壊された通潤橋導水管



石垣の村棚田 宮崎県日之影町

棚田との 語らい



我が国は七割が山岳地帯であるといいますが、山肌を眺める時、そこに棚田が含まれている風景と、そうではない時の風景を比較してごらん下さい。

棚田を含む景色は多くのことを語りかけてきます。それは言葉をこえて、私たちに癒やしと潤いを与えてくれるのです。同時に日本人特有の律儀で勤勉な心の育成にも寄与しています。すなわち、そこには先祖たちの長年にわたる教えが含まれているからです。

その意味でも価値ある棚田の姿は子々孫々へ届けなければならぬものと考えています。

写真・文 永田 博義



紫陽花

永田 博義 ながた ひろよし

- 1938年 長崎県佐世保市生まれ・千葉県松戸市在住
- 1976年 写真家前田真三先生に邂逅、指導を受ける
- 1984年 写真集「本土寺の四季」出版
- 1997年 写真集「偕楽園逍遙」出版
- 2005年 ポストカード「遺産 日本の棚田Ⅰ」作製
- 2005年 ポストカード「遺産 日本の棚田Ⅱ」作製

棚田・里山
からの
たより



地域住民と棚田に愛着を持つ人達と 守り、受け継ぐ井仁の棚田

広島県山県郡安芸太田町井仁

井仁の棚田について

井仁の棚田は、広島県北西部に位置する安芸太田町にあり、室町時代前期（1400年頃）に集落が形成されたといわれています。面積が約7・9畝、324枚の石垣の棚田です（現在は約200枚が耕作）。集落の名である井仁の「井」は丸い、「仁」は村・集落の意味があるといわれています。標高約500mにあるため、辿り着くまでの山道は曲がりくねっており、入口のトンネルは、車一台分ほどの幅しかありません。そのトンネルを抜けた先に、目の前に広がる急峻な山に囲まれたすり鉢状の棚田は、桃源郷を思わせます。

棚田の石垣技術は、山城の築城から発達したといわれ、秀吉の朝鮮出兵の際も、持ち帰った石積技術によって、さらに棚田が築かれたと推定されています。

棚田を守るための取り組み

平成11年に広島県で唯一「日本の棚田百選」に選ばれたことや、広域交通網の整備により、広島市内から1時間で来られるようになったことがきっかけとなり、都市農村交流による保全活動の取り組みが活発になりました。この頃から始まった、集落住民の主催による、広島都市圏の住民との交流や伝統農法の体験を目的とした「井仁棚田体験会」は、今年で19回目となり、現在は約100名の都市住民が参加する一大イベントとなっています。

景観の美しさから、メディアでの紹介が増えたことや、展望台・休憩所などの設置によって、棚田を眺めるために観光客やカメラマンが訪れるようになりました。また、平成27年には、アメリカの放送局CNNの「日本の最も美しい場所31選」に選出され、外国からも注目されるようになり、外国人観光客も訪れています。



1：稲刈り前の棚田／2：馬耕体験会／3：田植え体験会／4：大学インターンシップ

外部からのサポートを作る 新たな取り組み

数年前から、高齢化や人口減少により、集落住民による取り組みだけでは棚田を維持するのが難しい現状となっていることから、新たな取り組みが始まりました。平成23年に、自主活動組織「いにびちゅ会」（マチュ・ピチュにちなんで命名）を発足、翌年には井仁棚田活性化を目的とした地域おこし協力隊が導入されました。また、平成25年から棚田オーナー制度を開始、棚田で米作りをしたい都市部住民を対象に、農家の指導のもと、田植えや稲刈り、脱穀などの農作業を通して、都市農村交流や米作りの担い手育成を行っています。また、高級食材として養殖が進んでいる淡水魚「ホンモロコ」を育て、休耕田を活用する取り組みも行っています。

他にも広島県内の大学生の学習の場として、農業体験の授業やインターンシップ、米袋・観光ポスター制作などの「域学連携」を行っています。個人で訪れて、イベントを企画し、棚田を盛り上げる活動をして



棚田カフェのDIYのようす

くれる学生も出てきてくれました。また、都市の児童を対象に、感性を育むための「季節を探す」自然体験を行うスイミングクラブの活動や、自然の中で育児を行う母子サークル「森のようちえん」など、井仁の棚田に愛着をもって関わってくれる人達が増えてきました。

棚田を守るための今後の展望

井仁の棚田には、たくさんの方が景観を眺めに訪れるようになってきたものの、しっかりと足を休めることができる場所がなく、直売所などもないため、地域にとってのメリツトが少ないというのが現状です。そこで、地域おこし協力隊員が中心と

なって、棚田の恵みである米や野菜、果物などを使った食事が楽しめる、地域住民や観光客が交流できる棚田カフェをつくる計画がスタートしました。観光客と地域住民が一緒に席に座り、井仁のこと（昔の話や農業、生活など）を語り合い、「井仁の棚田に来て良かった」、「外の人とおしゃべりできて、良い気分転換になった」と、みんなが楽しくなる場に、そして、地域の人が自分たちが住むこの地に誇りを持ち、訪れた人が井仁の棚田に愛着を持って関わりたいと思うような場所になればと願っています。

（いにびちゅ会）

棚田へのアクセス

- 【公共交通】 広島バスセンターから広電バス「三段峡線」に乗り約60分の「戸河内ICバスセンター」下車、更にタクシーで10分
- 【自動車】 中国自動車道戸河内ICから県道303号線で大蔵神社を目指す。ICから6分。または加計スマートICより県道303号線経由で約10分

お問い合わせ

広島県安芸太田町中筒賀井仁721
井仁棚田交流館：Tel. 0826-32-2085
いにびちゅ会：
<http://initanada.yamanoha.com>



朝やけの棚田



山梨県南アルプス市 平岡の棚田

棚田ライダー

ひたすら棚田を求めて
走り続ける…人呼んで
「棚田ライダー」
今日もどこかの棚田に
そいつはやってくる!

棚田ライダー3号 大久保 芳洋(千葉県我孫子市)

南アルプス・楡形山の麓に広がる、富士山も望める風光明媚な棚田の里を、マウンテンバイクが駆け抜けていきます。
今、回の棚田ライダーでは、彼らのことをご紹介しましょう。
アウトドア界の異端として居場所を失いつつあったマウンテンバイク乗りと、地元農業の衰退に悩むボランティアが、ここ楡形山で出会いました。
人が入らなくなった里山に埋もれた古道を復活させ、マウンテンバイクを安心して楽しめる場をつくる…自転車乗りが集まってくる…彼らはこうしたフィールドの存在価値を理解し、より深く地域と関わっていく…。
果物、ハチミツ、野菜に山菜にと地域の豊かな農産物に魅かれ、耕作放棄された農地をボランティアの力で蘇らせ、地域の伝統行事に参加し…といった活動がどんどん加速しています。
棚田の一角をお借りして稲作も行っていますし、この春には棚田を望む放棄地を開墾してブドウ畑もできました。
でも、これらの活動は棚田だけのためでも、マウンテンバイクだけのためでもありません。地域と都会が繋がるツールとして、マウンテンバイクが機能している好事例という事です。
その先に見えてくるのは、日本の里山が再び元気になる嬉しい未来かもしれません。



気になった方は、
「南アルプスいしゃの里」づくりの会
「南アルプスマウンテンバイク愛好会」
で検索!



第十二回は岐阜
県恵那市にある
「坂折棚田」を紹介するわ!

400年という歴史が続く坂折
棚田は、専門の石工集団が築
いたとされる美しい石積みが
特長の棚田よ!



一区画あたり約100㎡を借りられ
るオーナー制度。坂折棚田では毎
年2月にオーナー募集をスタート
するわ! 価格は一般コースで年間
35,000円。作業はコース制を取っ
ていて、田植え、草取り、稲刈り、収
穫祭など一年を通して参加する作
業を選ぶことができるの!

棚田にはカフェも併設して
あって、特に棚田米に黒米を
混ぜて炊いたカレーライスは
大人気メニューなのよ!

オーナー応募資格や最新の情報は、
坂折棚田の保存会HPもしくは
Facebookを見てみてちょうだいね!
<http://sakaori-tanada.com/>
<https://www.facebook.com/sakaoritanada/>



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介
第十二回

第十二回

こちらもチェックしてみてネ! /

棚田オーナー募集地域紹介サイト

棚田百貨堂

検索

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

南房総の海が見える棚田

千葉県鴨川市二子



千葉県鴨川市は房総半島の南端に近く、県下で最も標高の高い愛宕山(408^{メートル})を擁する嶺岡山系が東西に横たわっている。その東端、山系の南斜面に二子はある。その存在は棚田オーナー制を始めた2006年の時点から知っていたが訪ねたことはなかった。2017年5月、棚田学会の現地見学会で初めて訪ね

南房総の海が見える棚田の景観に魅了され、再度訪ねてみたいと思った。早速、翌月中旬に鴨川市二子を訪ねた。鴨川へは東京駅八重洲口前から出る東京湾を横断するアクアライン経由の高速バスが便利。料金も安く、およそ2時間で鴨川駅西口に到着する。さらに、現地二子へは駅東口前にある日東交通のバスターミナルから1日4便、曾呂行きのバスがある。中台の停留所でバスを下車、

山に向かつて農道を上ると二子の棚田がある。

海が見える棚田

棚田は、蛇紋岩が露出する嶺岡山系の標高30〜170^{メートル}の南斜面にある。三方から谷に向かい彦次郎池に収斂する斜面に棚田が拓かれている。傾斜は5分の1〜6分の1、広さは2〜3枚をかけ直し(畝町直し)して1枚にしたそうだが、それでも1・5〜2・0^{メートル}ほど、法面は土坡で高さが2〜3^{メートル}はある。三方の斜面はそれぞれ10段前後の階段になり、その周辺の棚田を含めると50〜60枚を数えることができ、さらに外縁部の放棄されている棚田を加えると100枚前後になると思われる。

これらの棚田が一望できる「二子

なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地理科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

棚田の家」がある高台から東を望むと、彦次郎池を眼下にして、その先に南房総の明るい海が見える。鴨川の松島といわれる太海(ふとみ)の海岸だ。南は曾呂川右岸の丘陵で限られる。その景観は、東日本では数少ない海の見える棚田として特筆できるものである。

ところで、蛇紋岩は地球上で最も多い岩石である。橄欖岩(かんらんがん)から生まれたものだが、もろくて風化に弱く、地じりを起こしやすいといわれ、土木業者からは厄介な岩石として嫌われている。このため地区は県による地じり防止区域に指定され、60年も前から地じり防止用の横穴の集水井戸



設置などの事業が進められてきた。しかし、地じりはおさまらず。一昨年「棚田の家」の隣にあった民家が立木とともに地じりで倒壊、現在も生々しい傷跡を残している。これらのことから二子の棚田は地じり跡地に拓かれたものと考えられる。

しかし、蛇紋岩はさらに風化が進むと重粘土になる。それを底土にした棚田は水持ちがよく、放棄して地割れなどを作らない限りじることではないといわれる。しかも「蛇紋岩米」の名で宣伝されるほど、重粘土質の棚田で作られた米は甘味があり美味しいという評判である。

地権者は地区の代表ただ一人

地元では地区の代表と2人の支援者にお会いした。鴨川市中山間地

域二子活性化協議会の代表は松本友一さん（76歳）、5年前に奥さんを亡くした後は独居世帯。長狭高を卒業後、鴨川唯一の装置産業、ニツケルを生産する鴨川化成に入社。会社はその後紀文フードケミファア

にかわったが、56歳まで勤務した。実家は陸軍病院の准医として働いていた父親が戦後帰農し、60[㍗]の水田を耕作するとともに10頭の乳牛を飼う専業の酪農家であった。しかし、松本さんが30歳の時、父親が脳溢血で死亡、その後は乳牛の飼育は止めたが兼業農家として棚田の耕作は続けてきた。

所有する水田60[㍗]、現在は10[㍗]、2枚を耕作、そのうちの1枚はオーナー田として利用している。そのほか20年前に二子から曾呂川河岸の宮

に移した住居近くの農家2戸が所有し放棄していた水田26[㍗]を耕作している。二子の家は中学生の子供を持つ母子家庭の移住者に貸している。母親は二子でイベントがある時には参加し手伝うそう。機械類はトラクター（12馬力）1台、乗用4条田

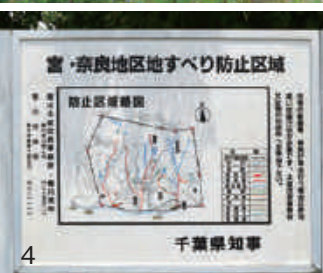
植機1台を所有。収穫は他の農家に賃料12万円で作業委託している。昨年の収穫量は22俵（60キロ詰め）、すべてを縁故米として処理している。ので子供や親戚・知人に出血大サービスをしているようなものだと言われる。地権者の人たちが欠けているなかで、松本さんが頑張るのは亡くなった奥さんが棚田の畦際に生えるヨモギ・ユリ・スイセンを取りに来ていた面影を偲ぶ場を失いたくないためかもしれない。

2人の支援者は荒川幸夫さん（71歳）と浅田治夫さん（65歳）。荒川さんは奥さんを亡くされた後、田舎暮らしを決意して来住した一ター

ン。新潟市の中心街古町の出身、実家は金物屋だったそう。新潟高から早稲田大学理工学部に進み、卒業後日本鋳業に入社、その後東京貨物開発に移り、63歳で退社した。65歳の時に二子の隣の集落代に家を新築して移住した。市のシルバー人材センターで理事を務める松本さんに出会い、二子のオーナー制度の取り組みを手伝うようになったという。主として草刈り作業を担い、行事の進行役を務めるなど年間50日近くは働いているそう。

浅田さんは静岡県清水市（現静岡市）出身、清水東高から防衛大学校に進み、卒業後は陸上自衛隊の幹部として勤務、55歳で退官。この間立川、朝霞、宇都宮、伊勢、八尾、サウジアラビアなどの赴任地を転々としたそう。現在は千葉県木更津市に奥さんと二人で住んでいる。退官4年後の59歳の時、農業に目覚め二子の1・2[㍗]の棚田オーナーになった。

しかし、農業体験型のオーナーで



1：棚田と池と房総の海／2：展望台／3：地じり跡（現況）／4：地じり区域であることを示す看板

は満足できず、曾呂川上流の集落上の空家を借りて拠点にし、歩行型耕耘機4台、歩行型2条田植機2台、バインダー2台を購入。5戸が放棄した棚田45[㌥]を無償で借り受け耕作するとともに、二子での頼もしい支援者になっている。

当日お会いできなかったが、鎌ヶ谷市在住の佐藤登さん（66歳）も強力な支援者。秋田県仁賀保町（現にかほ市）の農家出身。次男坊ゆえに地元の職業訓練所を経て上京、日立製作所亀戸工場に入った。3年後に歯車の一つとして働く自分に疑問を感じ退職、業界紙でアルバイトをしながら都立両国高校の夜間部に入学した。卒業と同時に母校の実験助手に採用され、東京理科大学二部にも通って免許状を取得、33歳の時に東京都の高校教員になった苦学力行の人。教員をしながらも農家の血は脈々として流れ、56歳の時に二子のオーナーになり、3年後は支援者に、さらに3年後教員を退職してからは支援者を続けながら10[㌥]の水田を耕作する就農者になった。

オーナー制度と「七人の侍」

二子でのオーナー制は、鴨川市が棚田特区の指定を受けて2年経った2006年に始まった。私が分類したオーナーの来訪回数による類型では作業参加・交流型（来訪回数が4〜9回）に当たる。マイ田圃方式（面積100㎡程度）で会費3万円、収穫量のすべてを持ち帰ることができ、田植え、草刈り3回、稲刈り、脱穀の作業が課せられるものだ。応募組数はほぼ30組前後で推移し堅調である。海が見えるすぐれた景観のほか、ピワ・クリ・シイタケ・フキ・ウメなどが採取できる楽しみもあるからだと思われる。オーナーも多彩でタイ大使館員や地元で田



棚田全景

舎暮らしを始めたアメリカ人など国際的だ。

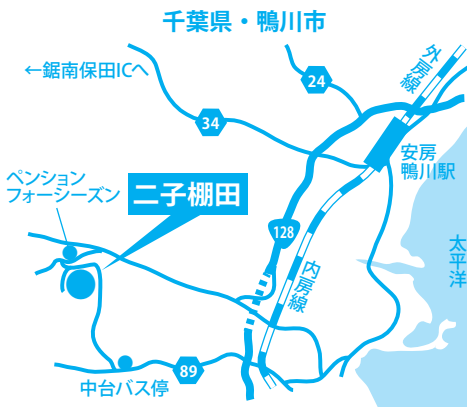
しかし、当初3人いた地権者は代表のみとなり、担い手不足が深刻になった。その状況を見かねて荒川・浅田・佐藤さんのほかオーナーだった大竹さん（浦安市・江東区役所OB）、市塚さん（東京都・練馬区役所職員）、小沢さん（横浜市・自営不動産業）達も支援者となり、田づくりから草刈り、オーナーのサポートなどの作業を担うようになった。地元にて拠点を持たない人たちは共同で古民家を借り、寝袋で宿泊し

ながら作業に従事するというから、本格的な就農といってもよい。つまり、二子の棚田は代表を侍大将とする「七人の侍」によって守られているのである。



左から荒川幸夫さん、松本友一さん、浅田治夫さん

棚田へのアクセス



【公共交通】 JR外房線安房鴨川駅前からタクシーで約10分。または鴨川駅西口から鴨川日東バス曾呂行きに乗車。中台バス停下車、徒歩20分

【自動車】 富津館山自動車道鋸南保田ICから県道34号線で安房鴨川駅を目指す。ここから国道128号線経由でペンション「フォーシーズン」を目標に進む。安房鴨川駅から約4.5 km。（道路幅員狭い）

異文化交流の仕事の中で

東京都江東区 上野 宏之

国際交流基金というところで日本の文化を海外に紹介する仕事をしています。

若いころから中南米に興味があり、ラテンアメリカ史を学んだり、南米の民族音楽folkローレをやったりし、協力隊でペルーへ行ったのち、今の仕事についてブラジル、ロシア、スペインと廻ってきました。

最初の海外生活のあと、環境問題への関心から有機農業のグループに入ってから、日本に帰ってくると畑に通うというパターンが定着しています。現在は練馬にある「風の学校」という農業体験教室に通うとともに、棚田ネットの体験にもできるだけ参加しています。

異文化交流という仕事と日本での農作業(のまねごと)は方向性が全然違いますが、海外でのやりがいのある仕事に比べて管理系の業務が中心の東京での生活に潤いをもたせ、バランスをとる役割を果たしているのかもしれない。

現在担当している仕事に「地球市民賞」という賞があります。地域に根ざした国際文化交流を行う団体を顕彰するもので、昨年度は福島県川俣町でfolkローレのフェスティバルを40年もやっている「ノルテ・ハポン」が選ばれました。私も学生のころ何度か参加したことがありますが、最初は愛好家の小規模な集まりだったのが、いまでは本場アルゼンチンからもプロが手弁当で参加し、3日間で一万人が集まる大



フェスティバルに成長しました。授賞式のスピーチでは代表の方が「Think globally, Act locallyをこれからも実践していきたい」と挨拶されました。

文化による地域づくりの先駆けとして名高い大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭も、地域の歴史や文化に根ざして世界中のアーティストと交流することによって、棚田をはじめとする地域の価値が見直され、多くの人に愛されるきっかけを提供しています。

私の仕事人生も第4コーナーを回り、最後の直線コースに入っています。退職後はこれまで経験した異文化交流と日本での農作業(のまねごと)が交差する場所で、できることを探していきたいと思っています。

【プロフィール】

1990年より国際交流基金勤務

2016年スペイン王国「イサベル・ラ・カトリカ勲章」受章

※注:15世紀コロンブスのアメリカ「発見」を後援したスペイン史上もっとも重要なイサベル女王の名を冠した勲章。19世紀初頭、ナポレオン戦争の影響で中南米植民地が次々独立する中、植民地人をつなぎとめるためにフェルナンド7世が創設。勲章の裏表には「イサベル女王へのゆるぎない忠誠のために」と書いてあり、ラテンアメリカ派だったはずの私もすっかりスペインに取り込まれてしまった。

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声8000字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて)〒160-0003 東京都新宿区西新宿セーバーハーブ1611号「ハムセー」4号「棚田に吹く風」会員のひろば宛メールでも受け付けています。hiroba@tanada.or.jp



高知県香美市
有瀬の棚田

東京都調布市 高木 宏明

物部川を見下ろす棚田を描いてみました。やっと探して当てる棚田はかなり荒廃が進んでおり、心配でキャンパス上で復田しました。

棚田美術館
TANADA MUSEUM

会員レポート

庄巻の巨大壁画「棚田の四季」

神奈川県川崎市
高桑智雄

6月1日～4日に東京・青山スパイラルガーデンで開催された、元首相で現在焼き物や日本画などの芸術活動で活躍する細川護熙さんの「棚田の四季」展に行ってきました。都会のご真ん中、そして東京有数のお洒落スポット青山に、巨大な棚田が出現するとあってとてもワクワクして会場に入りました。

会場はスパイラルガーデンの名にふさわしく螺旋スロープがぐるりと囲む吹き抜けの円形空間で、本物の苗をカップに入れて棚田を模した土台に、高さ8・5mの巨大な棚田壁画が、想像以上の圧倒的な存在感で鎮座していました。

前面右上に桜が咲き誇る山々、下手の棚田では田植えが行われ、左上には見事な満月、そして下手には稲刈りとハサ掛けの風景。また青柳健二さんの棚田写真が飾られる螺旋スロープを上ると裏側には、収穫を祝う秋祭り、そして雪化粧をする山々と棚田の四季がユーモラスでありながら印象的なタッチで描かれ、それぞれの部分を注視しているといういろいろなストーリーが想像できて、何度も見てしまう不思議と癖になる作品でした。一般公開は4日間だけとはとてももったいない！またどこかでぜひ公開して欲しいものです。



■プレナス米文化継承事業
細川護熙作「棚田の四季」特設サイト
<https://www.plenus.co.jp/tanada-no-shiki/>



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

製作：日本
監督・脚本：高橋伴明
配給：角川映画
本編127分
2009年公開作品
DVD発売中



© 2009 「禅 ZEN」
製作委員会

「ZEN」

日本曹洞宗の開祖・道元の生涯を描いた作品。乱世の鎌倉時代——道元は仏道の正師を求め宋へ渡り（入宋し）仏法を学ぶ。帰国後は比叡山からの圧力に抗いながら、禅の教えを広めた。揺るぎない孤高の精神。清冽な生涯をおくった道元禅師の知られざる物語が、750年の時を超え、今、甦る！

棚田も印象的に使われており、歌いながら田植えをするシーン、黄金に染まる稲刈り時期、そして「田毎の月」の言葉通りのシーンも見どころ。



棚田作品集

編集・発行：
じよんのびグループ

2017年6月

市販はされていません。入手希望者は下記までお問合せ下さい。

問い合わせ先：
調布市・高木宏明
(tel. 090-1616-9298)



棚田学会傘下の「じよんのびグループ」が出版した写真・絵画集。百選の棚田をはじめ、アジア近隣諸国の棚田をテーマにした画像がふんだんに収録されている。棚田の風景描写にとどまらず、石積みや土坡、谷地田型の棚田などが紹介されており、棚田入門者にもお勧めできる教材といえるだろう。さらには棚田における人々の営みが表現され、その歴史的・文化的な価値を感じさせてくれる作品集になっている。

中学校で出前授業を行いました

2017年4月28日 報告 上久保 郁夫

隅田川を望む中央区立佃中学校の出前授業。オートロック付の新しい校舎ですが、古い伝統も大切に都指定の「伝統・文化教育推進校」です。

2年生4クラスを対象に「棚田とお米の話」について、前半はスタッフの西口が、後半を私が担当。美しい棚田の紹介とともに棚田のもつ多面的な機能や価値、保全などを中心に話し、最後には棚田の生き物のリクエストが出るなど盛りだくさんの内容でした。

伝統文化を大切にする先生方の努力の結果でしょうか、生徒たちは礼儀正しく、好感の持てる環境学習の場になりました。



春の棚田講演会を開催しました

2017年5月21日 報告 西口 樹里

棚田ネットの年次総会の後に、会員以外の方にも参加可能な講演会を開催しました。会場のエコギャラリー新宿の会議室がいっぱいになる盛況でした。

前半の講師は棚田ネット理事で、外資系ホテルの経営に携わる阿久澤剛樹さん。星峠棚田における企業の社員研修の取り組みについて紹介いただきました。後半は2013年から3年間アフリカ中央部のルワンダで勤務され、現在JICA農村開発部に勤務されている田中卓二さんに、ルワンダにおける「農業と灌漑」について講演いただきました。どちらも、とても興味深い内容でした。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

スタッフの
つ・ぶ・や・き

< 輪番制 >



今回のつぶやき人

事務局
ドラゴンフライ

みなさま初めまして。今年4月より事務局見習いをしておりますドラゴンフライと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

かねてより私は地理学や地形・地図に興味を持っておりましたが、先日、地理つながり友人のフェイスブックの投稿にて棚田ネットワークを知りました。ホームページをのぞいていくと、ボランティアの募集があるではありませんか！すぐに立候補したというわけです。

そんな私ですが、地形など多少の予備知識はあったものの、棚田についてはまだまだ勉強中です。まづもって棚田に行ったことがありません！ですがイチ事務局スタッフとしては棚田ネットワークの一年の流れにゆっくり慣れることを優先して、来年こそは行きたいと思っています。

現在私は、大昔の多摩川が作った「国分寺崖線」という、東京を東西に貫く長い長い「崖」の近くに住んでおり、生活圏の多くに坂があります。ここ20年で20kg太ってしまい、上り下りするのには年々大変になっていきますが、これらの坂の一部には雑木林などの景観が残されています。たまに散策するととても良い気分になります。

崖からの湧水を水田を利用している地区もあります。面積はそれほどありませんし、農家の方々と面識はありませんが、通りすがりで東京育ちの私でも四季を通じて水田を目にすることができると貴重な場所です。

今年の梅雨は雨が少なく、その水田も一部乾燥してヒビが入り、同じように湧水を集めて流れる近くの川も水量が少なくなっていました。その上に8月の天候不順も重なりました。

少し心配してはいますが、きっと秋には例年同様、黄金色の稲穂が頭を垂れることを期待しています。

今後とも、宜しくお願い致します。

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

オーナーと一緒に
「田植え体験」を実施



川代棚田でのお米づくり体験も3年目を迎え、今年は5月3日に「田植え体験」を行いました。

この日はオーナー田の田植え行事で、多くの家族連れで賑わうなかで行われました。中島代表、川代集落の庄司代表、鴨川市の課長さんの挨拶後、早速田んぼに入って田植え開始です。目印を付けた縄を張り、その縄に沿って一列に並び植えていきます。最初のうちは綱張り役と植える人とのタイミングが合わず、手間取っていたものが、だんだん慣れてスムーズにまっすぐな苗の並びになってきたところで無事完了。昼食は地元の婦人部の皆様の手作りのタケノコの炊き込みご飯など季節感あふれる弁当をいただきました。

今年は参加者が14名と少な目でしたが、田植え初体験という参加者もいてうれしい限りです。植えた苗はすくすく育っており、草刈り、稲刈り等と順調にできるよう祈りたいものです。

(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

ビオトープの田植えと観察会



坂折棚田ではかつて裏作として麦を作っていたそうで、田植えは6月になってからしたとのこと。

「麦の秋至る」5月31日(水)に棚田ビオトープの田植えをしました。岐阜県立国際園芸アカデミーの学生など19名がさわやかな天気の中、にぎやかに苗を植えました。今年も田んぼの中にヤマアカガエルのオタマジャクシが大量にいて感動。

「土潤うて薄し暑し」の中、7月29日(土)にこどもビオトープ観察会が開催されました。参加者は合計3名(うち子供は2名)で例年より少なかったものの、捕獲された生物はトンサマガエル、ヤマアカガエル、サワガニ、トンボなどよく採集できました。今回は昼食後、保存会が今年から新たに始めたトマトの収穫体験もすることが出来ました。

なお、稲刈りは9月23日(土祝)を予定しています。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

初夏の畦塗り、田植え～夏の草刈り



石部棚田にまた春がめぐってきて、田んぼの準備も進んでいきます。4月中旬にはスタッフのみで「代掻き」をして、ゴールデンウィークの5月3・4日に「畦つけ・畦塗り」を行いました。3本鍬にうまく土を乗付けて平鍬でならし畦を塗り足す作業。そして5月20・21日の「田植え」。年々ファミリーでの参加も多くなってきて、ちびっ子達も多く、大喜びでやってくれます。初夏の穏やかな天候に恵まれ気持ちの良い賑やかな田植えとなりました。

7月1・2日は「草刈り・草取り」の1回目。今年は曇りで気温も高くなく、心地よく除草作業ができました。2日目は恒例の石部集落の「大地曳き綱祭」に参加。イカや刺身が振舞われました。2回目の「草刈り・草取り」は8月26・27日。びっしり伸びた雑草を必死に！刈って、取ってなんとか任務完了！次はいよいよ10月7・8日の「稲刈り」です！

(久野 大輔)

9/26
(火)
発売

日本の棚田百選を含む全国の美しい棚田212

全国棚田ガイド

TANADAS

中島 峰広 監修
NPO法人 棚田ネットワーク 編

棚田ネットワーク20年の活動の集大成！日本の棚田百選を含む全国の美しい棚田212カ所をオールカラーで紹介。各棚田の地域情報、景観の特徴、見どころや楽しみ方、棚田の成り立ちや保全の取り組み、イベント情報から特産品や周辺観光スポット、温泉、宿泊などの情報も満載です。もちろんアクセスマップ付き！全国の棚田を巡ってもよし、お気に入りの棚田を見つけてもよし、個性豊かな棚田の写真を眺めるだけでも楽しい。未来に残したい私たちの財産である全国各地の棚田の魅力が詰まった一冊です。

棚田の基本情報の他
特産品や周辺情報、
温泉・宿泊情報も掲載！

定価：2,700円(税込)

発行元：一般社団法人 家の光協会



全国の一般書店、Amazon、棚田ネットワークHPなどで購入できます。



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になろう！

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか？

〇個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています！

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

〇法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

8月26日の日本経済新聞「NIKKKEIプラス1」の人気コーナー「何でもランキング」に棚田が取り上げられました！専門家がまず29ヶ所の棚田をリストアップして、棚田の有識者や写真家、旅行関係者、フリーライターなど10名の選者が得点投票をして、総合得点でランキングが決まるという企画です。あくまでも「棚田 移ろう絶景を見に行こう」というコンセプトで、景観重視のフォトジェニックな棚田が選ばれました。ちなみに1位は星峠、2位白米千枚田、3位娘捨て、トップ10はほぼ言わずと知れた有名棚田ばかり。でも7位に全国的には無名の金山棚田が入り健闘していました。さて皆さんのベスト10はいかがですか？

編集部から

ホームページのぞきを見て！

棚田ネットのWebサイトも見てみてください！



<http://www.tanada.or.jp>



2017年 夏秋号 Vol.105

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座：00100-7-151565